
河童の春支度

日野望美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

河童の春支度

【Nコード】

N6812R

【作者名】

日野望美

【あらすじ】

無言ダンテ様主催の企画『Smile Japan』参加作品です。被災地の皆さんが少しでも明るい気分になって下されば、嬉しいです。

（前書き）

個人的に山菜に思い入れがあります。

「春の支度だが、今年はどうする？」

「そうだなあ。例年通り、頑張るべきだろう」

「だがあてにしていた場所が塞がっていたりするぞ」

「それでもできる範囲で、精一杯やろう」

山奥のとある神社に赤・青・黄・黒・緑の河童五匹が集結して、今年の春の山菜の生やし方を相談していた。

「やはりフキノトウは外せん」

「アク抜き無しで食べる事が出来るコゴミを例年より増やそう」

「コシアブラは例年より少なくなるなあ」

「恒例の春の大宴会はどうなるんじゃ？」

「自粛じゃあ、自粛」

「働いた後の酒ぐらい、罰はあたるまい」

「赤河童は飲むと暴れるからな」

「もう、暴れるほどは飲まん」

「ここに来る途中、見つけた酒だ。飲むか？」

「おう。黒河童、かたじけない」

黒河童が持ち込んだ一升瓶二本は、たちまち空になり皆良い気分になり始めた。

「雄ばっかりはつまらんのう」

「桃河童は誘ったんじゃろう？」

「川魚と山菜は飽きたそうな。何やら器用に化けて人里に居るようだ」

「何を食っているんじゃろうな？」

「スーパーとコンビ二をしょっちゅう気にしていたからなあ」

「桃河童は、若いからなあ」

「わしらより、人間の若い男が気になるらしい」

「ち、ちくしょー!」

すると、急に甲高い声がした。

「うるさい、うるさい、うるさい!」

ピンクのワンピースに黒いPコート、ブーツに赤いキャスケットで大きなバッグを斜め掛けした桃河童だ。

「誰かと思えば」

「戻ってきたのか」

「そーだよ。山菜の件が有るだろーが。土産に酒のつまみアーンドおやつを持ってきてやったのにさ、勝手な噂してんじゃねーよ」

桃河童は機嫌が悪い。

「人間の男と別れたのか」

そんな事を口走った赤河童は、思い切りバッグで殴られた。

バコーン!　ズコ、ズコッ!

「別に人間の男とどうこうなったりしてませんー、有り得ないー」
「そうか、河童と人では夫婦にはなれんものな」

バコーン!

「あんたか！そんな馬鹿な事を言い出したのは」

「違ったのか、すまん」

「はなから違うにきまってるだろー」

バコーン！

「頼むから鞆で頭を叩かんでくれ。皿が割れてしまいそうだ」

桃河童は肩で息をしている。よほど思いきり殴ったらしい。

「気が済んだか」

「まあな」

あれだけひっぱたいておきながら、桃河童は当然の様に赤河童の隣に腰を下ろし、缶詰を開けて差し出した。

「あー。ほら、食いな」

「人間の所も今は食いものが足らんだろうに、よくまあこれだけ持って帰れたな」

「もとの住み処が瓦礫で埋まったから片付けしてたら、人間たちが色々くれたのさ。どうやら人間だと勘違いしてたようだぞ。それでも親切にしてくれて『お家にも持って行ってあげて』って言われると嬉しかった。……だから……」

皆、スナック菓子をほおばり、缶詰を開けてつつき始めていたのを止めて、桃河童を見つめた。

「そんなに人の顔、見んな、馬鹿！ えええっと、だからさ、今年はいつもとより張り切って人間が喜びそうな山菜を沢山用意してやるうか、なんて思ったのさ。その、河童も人間も昔からここら辺で暮

らしてきたんだしさ」

「近所づきあいか」

「まあ、そんなところ」

一同は、頷いた。

「じゃあ、今年は若くて山菜に不慣れな人間でも見つけやすいものを増やすか」

「大木が幾本も倒れた辺りから、タラの木が沢山見つかったから、若芽を多めにつけてやろう」

「温かくなればタラの木は早く伸びるからな」

「ウドも増やそう」

「セリも増やして、間違いやすい毒セリはよけておいてやろう」

河童たちの中に、人間との連帯感が自然に生まれつつあった。桜の季節になれば、恐らく河童たちの活動の成果ははっきりするだろう。

（後書き）

河童戦隊が居るとしたら、きっと頑張るはずです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6812r/>

河童の春支度

2011年3月21日06時07分発行